



医療法人 真生会

真生会富山病院

SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

地域連携だより

第31号 令和4年7月発行

〒939-0243 富山県射水市下若 89-10

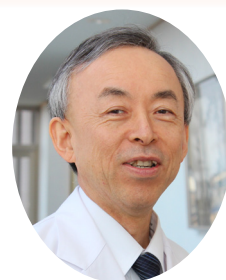
TEL : 0766-52-2156 FAX : 0766-52-2197

<https://www.shinseikai.jp/>



「顔の見える関係」の先にあるもの

コロナ前は、射水市のケアマネジャーの方々とは年に1度、地域連携交流会を開催していましたが、ここ数年は一同に会することが困難となりました。療養支援、生活支援の重要性は高まる一方ですから、外部環境の急速な変化に翻弄されるばかりでは残念です。そこで、今年に入ってから規模を狭めてオンラインで「いみずケアミーティング」（下の写真、詳細は別ページに紹介）を開催しました。



副院長

橋本 義弘
はしもと よしひろ

地域連携の推進でよく使われる言葉が「顔の見える関係」です。「顔の見える関係」とは、具体的にどうなることでしょうか。個人レベルで言えば、「名前と顔、考え方が分かる」「具体的に誰がどのような仕事をしているのか、だいたい分かる」「相手の求めているもの、困っていることが分かる」。組織レベルでは、「施設の理念や事情が分かる」「誰に言えば解決するか、具体的な役割が分かる」など、いろいろと表現できるかもしれません。

「顔の見える関係」から、地域連携に現れる結果が、「連絡しやすくなる」「親近感を覚える」「誰に言えば解決するか役割が分かる」「効率が良くなる」となり、顔と名前を知っているだけで



なく信頼できる関係となれば、すばらしく思います。

医療・介護の需要が高まる中、どのような資源が、どこに、どれだけあるのかを熟知して共に適切に活用できる体制を構築してゆきたいと考えています。

アイセンター特集 第3回：あやめ病棟

眼科（アイセンター）センター長 うえた よしき 植田 芳樹

年に1回、アイセンターの記事を書いています。第3回は「あやめ病棟」です。

真生会には3つの入院病棟があります。その中の一つが「あやめ病棟」です。真生会の病棟はいずれも花の名前がついていますが、あやめ病棟は紫色がメインカラーです。今は地域包括ケア病棟となりましたが、建設当時は眼科専門の病棟であり、今でも眼科患者さんを中心に看護してくれています。そのため、眼科ならではの工夫がいたるところにあります。

たとえば、眼科専門の診察室と処置室。祝日含め、毎日入院患者さんの検査と診察があります。看護師も眼科診療にプライドを持って働いてくれています。定期的な勉強会で知識を更新することはもちろんのこと、「患者さんの視点に立つ」を意識し、術前の視力や視野の理解、患者さんからの質問に答えたり、術後にロービジョンになることが予想されれば、室内の環境を整えたり、食事は食べやすいようおにぎりやおかずを串刺しにすることもあります。眼科治療で大切なことが点眼です。眼科の入院期間は短いですが（平均在院日数 2.8 日）、患者さん一人一人にあった点眼表を作成し、必要に応じて拡大したり白黒にしたり、認知機能や家庭状況から家で実施可能かも確認してくれます。

このように患者さんに寄り添った看護をしてくれるからこそ、医師は手術などの治療に専念でき、感謝しています。



あやめ病棟 看護師



病棟の診察室・処置室



病室の部屋番号は術後の患者さんに配慮した表示に

成年後見制度の活用から見える地域課題

地域医療部 あべ もとこ
阿部 素子

成年後見制度とは、認知症や知的障害・精神障害等によって、物事を判断する能力が十分でない方について、その方の権利を守る援助者を選ぶことで、その方を法律的に支援する制度です。

成年後見制度のうち、本人の判断能力が不十分になった後、家庭裁判所によって法定後見人等が選ばれる制度が「法定後見制度」です。

本人の判断能力に応じて「補助」「補佐」「後見」の3つがあります。申立の際、本人に法律上、または、生活面での課題がある場合、弁護士、司法書士、社会福祉士等、成年後見人等の職務に専門的な知識を持っている専門職を選任することがあります。

近年、独居高齢者、または、高齢夫婦で生活し、双方に認知症がある場合で、子どもがいない、または疎遠になっていて支援が受けられない等のケースが増えています。兄弟がいても高齢等の理由で支援が受けられないこともあります。

上記のような方が入院し、治療後に自宅に戻れない場合、施設入所や転院することになれば、誰かが施設側と契約を交わす必要があります。そういった場合、成年後見制度の申立を行いますが、成年後見人等が選任されるまでに数ヶ月を要することから、入院が長期化することがあります。その分、本人にふさわしい居住先を探すことが遅れます。

「地域課題」として捉え解決策を模索するために、市役所等の関係機関と広く協議していきたいと思えます。



真生会 We チャンネル (YouTube) 開設

動画を通じて皆様に健康をお届けする「真生会 We チャンネル」を開設しました。医師による健康ニュース、当院職員で結成された劇団 TIPS(チップス)の「療養指導戦士ダイヤモンドシリーズ」、リハビリテーション科職員による運動動画などを公開中です。チャンネル登録をどうぞよろしくお願いいたします。



「いみずケアミーティング」始めました！

介護・福祉に携わる皆様と連携を図り、より良い関係の構築を目指して平成24年（2012年）より「地域連携交流会」を開催してまいりました。コロナ禍で近年は開催を見送っていましたが、今年から「いみずケアミーティング」と名称を変更。射水市内に5つある地域包括支援センターの圏域ごとに開催する運びとなりました。これまでに2回開催しましたので、紹介いたします。（※感染状況によりオンライン開催としました。）

第1回

参加施設：大門・大島地区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、小規模多機能型施設、真生会

テーマ：コロナ禍における退院支援、独居・サービス未利用者等の地域との関わり

（話し合ったこと）

- 面会禁止の状況下で患者さんと会えず、ご本人の思いや、身体状況を十分に把握できない。そのためサービス調整も難しくなる。
- 退院支援に必要な情報のやりとりを、医療者・介護者がどのように行っていたらよいか。
- 独居の方、受診を拒否されている方、サービスが必要な状態でありながら受けておられない方へ、ご本人とご家族の思いを十分に聞き、尊重しながら、医療、介護専門職の立場で必要な支援を提供するにはどうすればよいか。



第2回

参加施設：小杉・下地区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、真生会
テーマ：支援困難事例のキーワード、対応実践例

（話し合ったこと）

- 支援困難事例になるケースには、多問題がある。
- 経済的に困窮している人だけでなく、裕福な人も支援困難なケースがある。
- より多くの多職種や社会資源を利用することで支援困難事例でも早く解決できる場合がある。
- あきらめず心を開かれる関係性をつくり、少しずつ心の扉を開いていく。



いみずケアミーティングで地域の課題を共有し、ケアマネジャーが見ている「地域と利用者」、病院から見える「地域と患者」、それぞれの視点を融合することで介護と医療の連携が強化されることを願っています。

射水市がより住み良い街となるよう一緒に考えていく機会として、今後も定期的にいみずケアミーティングを設けていきたいと思ひます。